

健康登山27:周辺の山14 (高円山、芳山、若草山)

コース	白毫寺バス停 0.9km/17 0.9km/12 鷺ノ滝 2.2km/43	登山口 0.9km/36 地獄谷入口 1.9km/46 若草山 4.4km/60	火床 0.8km/22 石切峠茶屋 1.1km/27 奈良駅	高円山ホテル前 芳山 2.5km/48
水平距離	15.6km	断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km		
水平換算距離	15.6km			
累計高低差	登り723m、下り758m			
標準歩行時間	5:12			
実績歩行時間	7:05			



山行報告

山行日 2007・8・09 (木) 天候 晴れ 参加者 8名

奈良駅9:14 白毫寺バス停9:30 白毫寺9:41 登山口9:51 大文字火床10:40 高円山ホテル11:10 地獄谷入口11:24 石切峠茶屋12:20~58 芳山13:25 林道入口14:35 鷺ノ滝15:07 若草山16:13 近鉄奈良駅17:35 京都へ

記録

猛暑の舗装道路歩きを避けるために白毫寺までバスを利用した。バス停から10分ほどで白毫寺に着き、墓地の南にある池の横から高円山に登った。竹藪を過ぎ尾根筋を登ると、よく整備された登山道になった。標高400m位のところに大文字の火床があり、15日の行事に備えて火床には薪が置かれていた。ここから奈良市内や生駒山が一望できた。大の字の頂点から20分歩いてドライブウェイ脇にある高円山ホテル前に出た。

自販機で水分補給後、地獄谷入口までの1kmはドライブウェイを歩かせてもらった。歩行者通行禁止の標識があったが、他には道が見当たらず、幸い車には1台も出会わなかった。地獄谷には蛭が居るという情報があり、入口でその対策をした。地獄谷の道に入るとすぐに地獄谷石窟仏があったが、春日山石窟仏ほど像は鮮明でなかった。

石切峠に出たあと、東海自然歩道を少し歩き、峠の茶屋で昼食をした。茶屋の主人は私たちが先月来たことをよく覚えておられて雑談をしながら芳山への道を教えてもらった。茶屋から柳生寄りに真新しい公衆トイレがあり、その前の神社横から芳山への登山道がついている。途中で石切峠からの尾根道と合流し二つ目のコブの西側に三角点はある。そこから北へ少し進んだ東側に芳山石仏があった。

芳山から北へ進み、生琉里町から来る林道に出、左折してすぐに四叉路になっている。左が林道、中央が谷道、右が山道で私たちは林道を選んだ。2.5万地図では途中から歓喜天へ下る道がある筈だが見つからなかった。地図上の三叉路から真北へ下る道を下りきったところが鷺ノ滝だった。中央の谷道を下るのが正解らしいが、この道も悪くはなかった。

鷺ノ滝からは奥山ドライブウェイを歩き若草山で360度の大展望を楽しんだ。

若草山が閉鎖期間だったので下山は春日山遊歩道を通り近鉄奈良駅へ戻った。



周辺の山 (高円山、芳山、若草山)



白毫寺  
9:41



高円山への登り  
9:56



大文字火床  
10:40



火床の準備  
10:41



地獄谷石窟仏  
11:41



石切峠の茶屋  
12:56



芳山三角点  
13:51



鶯ノ滝  
15:09



若草山頂上  
16:13



遊歩道を下る  
16:26

名所・旧跡ミニガイド（滝坂道 周辺の山：高円山、芳山、若草山）

参考資料、HP / その他

白毫寺 : 霊亀元年(715)天武天皇の第7皇子、志貴(施基)皇子の山荘を寺とした鎌倉時代に道照によって中国から一切経巻が伝えられたので一切経寺とも言う。室町時代に兵火で全山焼失したが、現存の仏像は兵火から守られて、焼失を免れた。寛永年間(1624~44)に再興され現在に至る。本尊は阿弥陀如来坐像、眉間にある白毫(白い毛)から光明を発したので白毫寺の名がついた。

境内から奈良市内および生駒、金剛山方面の眺望が出来る。  
また閻魔大王をまつり、7月16日には「えんまもうで」で賑わう。

花の寺として知られ樹齢400年の「五色椿(天然記念物)」は、東大寺開山堂の「糊こぼし」伝光寺「散り椿」とで『奈良三名椿』といわれている。山門前の石段脇に咲く萩も人気がある。境内に萩を詠んだ万葉歌碑がある「高円(たかまど)の野辺の秋萩いたずらに 咲き散るらむ見る人無しに」  
霊亀元年(715)9月萩をこよなく愛した志貴皇子が亡くなったとき笠 金村が詠んだとされる。

宇治田原に施基(志貴)皇子が屋敷を構えたという伝承と、田原天皇社、天皇谷、大院馬場など思い出してください。(子は光仁天皇(白壁王)、孫は桓武天皇)墓は白毫寺東3キロ、高円山裏側の春日山天皇陵

高円山 : (たかまど やま。古くは、たかまと やま) 432.2m/460m 二等三角点  
春日山の南に続く山で西麓に聖武天皇の離宮があったとされる(場所不明)  
万葉集にも高円山はよく詠われている。

「高円の野のうへの宮は荒れにけり 立たしし君の御代とほそけば」

大伴家持

昭和35年戦没者慰霊のため、大文字火床が作られ8月15日に火が焚かれる。同年にドライブウェイも開通、夜間は京都タワーも見える

八柱神社(八王子) : 上誓多林の集落入り口にある神社

天照大御神と素戔鳴尊が天の安川で誓約(うけひ)をしたとき、天照の玉飾りから五柱の男神、素戔鳴の剣から三柱の女神が生まれた、この八柱の神を八王子という。

芳山石仏 : 芳山山頂の東側にある三面石に、天平後期ものとされる如来立象が半肉彫りされている。

西面 : 量感と逞しさ。南面 : 天平時代の深い精神面があるという。

ほやま  
芳山 : 春日大社の神奈備山である御蓋山<sup>みかさやま</sup>283m、花山 498m、を総称して春日山とい  
い、この東延長線上に春日奥山の芳山 518mがある。(御蓋山、花山は入山  
禁止)

加茂町の三上山<sup>さんじょうざん</sup>から春日山のその三つの山容がよく見える。  
御蓋山山頂の本宮嶽(浮雲峯)に、本宮神社があり、841年春日山一帯狩猟  
と伐木禁止となる。特別天然記念物春日山原始林で、世界文化遺産に登録さ  
れた。

興福寺別院鶯滝歓喜天：日本最古の歓喜天とか。立派な鐘楼がある。

歓喜天<sup>かんぎてん</sup>とはインド神話の魔王。頭は象身、体は人間の姿、男女の抱擁する姿  
をとることが多い。夫婦和合、子宝の神として信仰されている。

鶯の滝 : 春日山原生林佐保川の源流にある。落差10m、幅2mの滝  
パンフレットによると水滴が氷をたたき、まるで鶯が鳴いているように聞こ  
えたことに由来する。秋は紅葉が綺麗。

鶯塚古墳：若草山(旧名三笠山)山頂にある。全長103m、前方後円墳。五世紀前半頃  
らしい。標高300m以上の山頂にある古墳としてはわが国最大級に属する。  
万葉集の三笠山は現在の御蓋山<sup>みかさやま</sup>。昭和十年に三笠宮家が創設されたため、旧  
三笠山は若草山と改称された。また三笠シズ子が笠置シズ子と改名している。

初めは、鶯塚古墳は仁徳天皇の皇后(磐之媛命<sup>いわのひめみこと</sup>)の墓とされていた。  
清少納言の「枕草子」第十七段で『みささぎは、うぐいすのみささぎ。かし  
はぎのみささぎ。あめのみささぎ』とあり、江戸時代に東大寺の庸訓上人が  
磐之媛命陵と思ったらしい。頂上に享保18年(1733)庸訓上人建立の石碑  
『鶯塚』がある。

日本書紀で、磐之媛命は那羅山<sup>ならやま</sup>に葬るとあって、御陵は鶯塚古墳とされてい  
た。

それでは磐之媛命の墓はどこかという佐紀盾列古墳群<sup>さきたてなみこふんぐん</sup>にある平城の坂上  
陵が、それであって、幕末、明治まで平城天皇陵とされていたが、その後、  
仁徳天皇の皇后(磐之媛命)の御陵、磐之媛命陵であるといわれ今に至る。

全国で23番目の大きな前方後円墳である。

なお平城京をこよなく愛した平城天皇陵(楊梅陵<sup>やまきりょう</sup>)はこの南方にあり。今は  
円墳だが、元は五世紀代につくられた全長250mの前方後円墳だった。平  
城宮建設の際に、前方部が破壊され、後円部を改造され円墳としたと推定さ  
れている。